

「問い」が生まれる授業のポイント（国語）

－児童生徒が「問い」をもち、資質・能力を発揮できる「単元づくり」を－

国語科は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して」資質・能力を育成する教科です。そのため、単元や題材のまとまりを設定し、指導内容のつながりを意識しながら重点化を図り、効果的に学習を展開することが必要です。教師に求められているのは単元をデザインする力です。日常生活や社会生活との関連を重視した課題等を言語活動として位置付けるなど、児童生徒が「問い」をもちその解決の過程で思いや考えを広げ深めることができる単元を構成しましょう。また、児童生徒が身に付けた資質・能力を十分に発揮できる授業を計画・実践しましょう。資質・能力は使うことで育まれ、発揮することでよさが実感できるとともに学習意欲も高めます。

1 「問い」をもたせるために単元をデザインする（例 読むこと）

学習過程	「問い」をもち ○身につけたい資質・能力の理解 ○言語活動の確認（見通し）	言語活動を通して、「問い」を解決する・深める			新たな「問い」へ 身につけたい資質・能力に対する振り返り
	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成	共有	

「認識から思考へ」「思考から表現へ」資質・能力言語能力を発揮する

◎「言葉による見方・考え方を働かせる」とは？

学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。

文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」「中学校学習指導要領解説国語編」第2章国語科の目標及び内容より

2 1 単位時間の授業をデザインする（例）

導入	言語活動の確認	子供の「問い」を引き出し、取り組むべき必然性のある言語活動を設定する ○好きな本を紹介するなど子供が取り組みたくなる言語活動 ○日常生活や社会生活と関連した言語活動 ○古典や言葉そのものに着目した言語活動
	めあて	「問い」を自分事として捉え、見通しをもたせる ○生き物について分かりやすく伝えるために書き方を学ぼう ○意見文を書くために、記事を比較して読もう
	考えの形成	「問い」に対する自分の考えをもたせる ○昔の人と現代人の考え方の特徴を資料で調べる ○どのような種類の言葉があるか調べる
	共有	「問い」を生かした交流活動を設定する ○様々な意見にふれ、考えを深める交流活動 ○共通点・相違点はないか分析する交流活動 ○合意形成のための交流活動
展開		
	まとめや振り返り	「問い」への考えを整理させる ○友達のを取り入れる ○自分のことばで書く 学習を振り返り、新たな「問い」につなげる ○自己評価 ○相互評価 ○次時の見通し
終末		

※国語科においては、子供たちが「学んだことを整理する必要がある」際に、まとめを行ってもよい。

次の学習場面で、身に付けた言語能力を積極的に発揮させる家庭学習等の設定
○読書 ○ミニ作文 ○漢字習得 ○辞書による語句調べ ○音読 ○資料・新聞の活用
※タブレット端末を活用すると、より効果的に取り組めます。

国語科単元・授業の流れ(例)

- 言語活動を通して、資質・能力の育成を育成するために -
- ★身につけたい資質・能力を明確にし、言語活動を設定しましょう
- ★設定した言語活動のどの場面で子供が資質・能力を発揮できるか考えて単元を計画しましょう

言語活動を確らし 学習の見通しを持つ

◎ 子供にとって必要性のある「言語活動」の設定

- ◇ 育成をめざす資質・能力に適した言語活動の設定
- ◇ 子供が取り組みたくなる言語活動
→ 「話したい・聞きたい・書きたい・読みたい」気持ちが高まるような必要性のある言語活動
- ◇ 既習事項を生かした言語活動→既習内容を振り返り、実生活や他教科と関連付けるような言語活動

言語活動

- ・単元のゴールまで見通せること
- ・既習内容を生かせること
- ・子供の実態に即した言語活動であること

アウトプットする場面
「書く活動」を設定する(例)

考えの形成

思考を広げる発問

— 自分の考えを持たせるために —

- 既習内容を想起させ課題解決させるための視点を確認させる
- 相手意識、目的意識を持たせる
- 解決までの目安を示す(時間、文字数など)

ポイント1

- ・自分の考えを自分の言葉で書く
- ・既習漢字を使う
- ・「手元に辞書」等、積極的な声かけと活用



習得

活用

解決

学習評価を適切に位置付ける

共有

思考を深める発問

— 子供が思考する交流活動 —

- 多様な意見にふれる
- 共通点・相違点はないか分析させる
- 新しいものの見方、考え方へ向かう交流

ポイント2

- ・友だちの考えを聴く
- ・「発表」にとどまらず「問い返し」「質問」等の「対話」を行う
- ・サイドラインをひいたり、メモをとる
- ・グループの考えを学級全体で共有



ポイント3

- ・もう一度、自分の考えを書く(広がった考えを深める・再構築)



単元のまとめ 振り返り

授業においても「まとめ」や「振り返り」の時間を十分確保する

- 子供の言葉(わかったこと、解決したこと、本時のキーワード)を使ってまとめ、発表させたりする
- 次時の課題につながるように書いてまとめたりする

子供が主体的に
考え、話し、
書くサイクルの
定着

単元のまとめ 振り返り

- ◎ 自己評価(達成感、課題意識)
- ◎ つまずきへのフィードバック
- ◎ 年間指導計画の位置付け

授業とつなぐ

次時の課題解決に向かわせる

- ミニ作文 ○ 漢字習得 ○ 語句調べ
- 読書(関連図書を読む)
- 音読 ○ 資料・新聞

※国語科においては単元の内容によって「単元の振り返り」のみを行ってもよい